

船舶事故調査報告書

平成22年11月25日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年5月25日 13時41分ごろ
発生場所	大分県国東市国東港東方沖 国東港南防波堤灯台から真方位118° 2.0海里（M）付近（概位 北緯33° 33.0′ 東経131° 46.3′）
事故調査の経過	平成22年5月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 <small>チャイナ スター</small> CHINA STAR（大韓民国）、7,406トン 9283162（IMO番号）、Nam sung Shipping Co., Ltd 127.47m×20.0m×10.70m、鋼 ディーゼル機関、5,920kW、2003年11月27日
乗組員等に関する情報	船長（大韓民国） 男性 54歳 免状不詳 二等航海士（大韓民国） 男性 45歳 三級航海士（大韓民国発給） 交付年月日 2007年12月7日 （2012年12月6日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底に破口
事故の経過	本船は、船長及び二等航海士ほか12人が乗り組み、二等航海士が、甲板手1人とともに船橋当直に当たり、速吸瀬戸を北西進して通過した際、予定針路上に多数の漁船が存在していたことから、予定針路よりも陸岸寄りとなる約320°（真方位、以下同じ。）の針路とし、約15.5ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で、自動操舵により航行した。 二等航海士は、漁船がいなくなったことから少しずつ右舵をとり、約14.7knの速力で航行中、平成22年5月25日13時41分ごろ、国東港南防波堤灯台から118° 2.0M付近において、船底に衝撃を感じた。 二等航海士は、船長に報告して船体を調査し、浸水を認めなかったため航行を続けたが、14時30分ごろ燃料タンク内の液面が上がっていることに気付き、船長の連絡で来船した海上保安官により船底の破口が発見され、応急修理を行って大分港に入港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 低潮時
その他の事項	本船の当時の喫水は、船首約5.45m、船尾約7.23mであった。

	<p>事故発生場所は、国東港東方沖のホゴ瀬と称する浅所で、事故後の調査によれば、水深が約4～5mであった。</p> <p>二等航海士は、予定針路を変更する際、ちらっと海図を見たが、航行予定水域の水深が概ね20m以上であったことから浅所はないものと思い、事故発生場所付近にホゴ瀬を含む浅所が点在していることに気付かなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、国東港東方沖を北西進中、二等航海士が、多数の漁船を避けるため予定針路を変更する際、海図を詳しく見なかったことから、変更後の予定針路上にある浅所に気付かずに航行し、国東港東方沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、国東港東方沖を北西進中、予定針路を変更する際、二等航海士が海図を詳しく見なかったため、変更後の予定針路上にある浅所に気付かずに航行し、国東港東方沖の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	